

2021（令和3）年度

第5学年

学習の内容と評価



IBワールドスクール ユネスコスクール

スーパーサイエンスハイスクール

ワールドワイドラーニングコンソーシアム連携校

東京学芸大学附属国際中等教育学校

国語科 5 学年 <現代文 B>

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

5 学年の目標/伸ばしたい力

- ・ 作品を読み、身につけている知識を活用して、書かれている内容を理解する力。
- ・ 文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、分析する力。
- ・ 自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝えるための構成力。
- ・ 自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。
- ・ 言語についての知識やそれを活用する技能。

〈評価基準別〉

規準 A 知識・理解：

- ・ 作品を読んで、構成・展開・要旨などを的確にとらえ、理解する力を身につける。
- ・ 作品を読んで批評することを通して、人間・社会・自然などについて主体的に考える力をつける。
- ・ 近代以降の文章や文学の変遷について、理解を深める。

規準 B 分析：

- ・ 作品の読解を通してその作品を分析し、他の作品と比較したり、他の作品とのつながりを考察したりできる力を身につける。

規準 C 構成：

- ・ 作品の読みを深めるために、自身の意見やアイデアを持続性、一貫性、及び論理性のある方法で整理する力を身につける。

規準 D 言語の使用：

- ・ 学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。

〈分野別〉

評論分野

- ・ 身近な例と抽象的な論理展開がどのように関わるのか、文脈に即して理解することを学ぶ。
- ・ 接続語や指示語に注意しながら、論理の展開をつかむことを学習する。

小説・随筆分野

- ・ 表現にそって登場人物の心の動きをたどり、作品全体の構造を把握することを学ぶ。
- ・ 今を生きる人間と、その置かれた状況との関わりを正しく把握する。

評価規準

評価方法

規準 A 知識・理解 (10 点)

期末テスト・レポート・小テストなど

規準 B 分析 (10 点)

期末テスト・レポートなど

規準 C 構成 (10 点)

期末テスト・レポートなど

規準 D 言語の使用 (10 点)

期末テスト・レポート・小テストなど

最終的な評定は、評価材料によって重みを付け、総合的な得点率から算出します。観点別評価は参考にしますが、その合計点のみで評定を出すことはしません。

学習内容

主に教科書『精選現代文 B 改訂版』(筑摩書房)を使用します。単元によっては別にプリントや教材を配ります。

評論分野

- ・ 近代以降の文章の読解。
- ・ 現代思想の用語についての理解。

小説・随筆分野

- ・ 近代以降の文章の読解。
- ・ 近代以降の文章や文学の変遷についての理解。

国語科 5 学年 <古典 B>

6 年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

5 学年の目標/伸ばしたい力

- ・時代背景や社会背景を考えながら、他者・古人の考えや思いを言語表現を通して、深く理解する力。
- ・文章を読むだけでなく、人の話、さまざまなメディアからの情報を含めて、読み取り、分析する力。
- ・自分の考えや心情、あるいは調査結果・報告・説明などを相手にわかりやすく伝える力。
- ・自分の考えを深めたり、他の人とよりよいコミュニケーションを図ったりするために、人の話やメディアからの情報を正確に捉え、情報を選択・整理する力。
- ・言語についての知識やそれを活用する技能。

〈評価基準別〉

規準 A 知識・理解

古典としての古文・漢文を読む能力を高めるための知識の習得に努める。また、古典を読んで、日本文化の特質や自己に対する洞察を深める。

規準 B 分析

文章の読解を通して言葉や文章の意味・内容についての理解力・分析力を身につける。また、他の分野とのつながりに対する意識を持つ。

規準 C 構成

古典の読みを深めるために積極的に情報を収集・活用して、自分の考えや意見を他者にわかりやすく伝える力を身につける。

規準 D 言語の使用

古典に用いられている語句の意味・用法および文の構造を理解し、表現上の特色をとらえられるようにする。また、適切な語句・表現を使用できるようにする。

〈分野別〉

古文

- ・古文の基礎を確実に身につけ、より深い読み方ができるようにする（文法を含む）。
- ・代表的な作品（説話・随筆・物語等）を読みながら、古典の文章に触れ、時代背景や当時の文化について知る。

漢文

- ・漢文の基本的な読み方を身につける（訓点・基本句法を含む）。
- ・作品の舞台となった時代背景や場所について知り、内容の読解に役立てる。

古文・漢文共通

- ・作品に描かれた人物の行動や心情を通して、歴史の中に人間を探る。
- ・作品に表れた人間・社会・自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を広げる。

評価規準

規準 A：知識・理解（10 点）

規準 B：分析（10 点）

規準 C：構成（10 点）

規準 D：言語の使用（10 点）

・全ての観点を全ての学期で使うとは限らない。観点はあくまでもそれぞれの力の到達度を確認できるようにするためのものである。したがって、学期末の 10 点法評価と学年末の 5 段階評価は、観点の合計ではなく、評価材料の合計に基づく得点率によって算出する。

評価方法

小テスト・期末テスト・授業内小レポート・発表活動

期末テスト・授業内小レポート・学期末レポート・発表活動

授業内小レポート・学期末レポート・発表活動

文法小テスト・漢文句法小テスト

*状況によって、評価材料の増減があり得ます。

学習内容

古文

- ・平安～近世までの代表的な古典作品の読解
- ・万葉集・古今和歌集・新古今和歌集を中心とした和歌の理解
- ・文学・文芸・芸術に焦点をあてた歴史的・社会的背景の理解

漢文

- ・代表的な故事の理解・思想の基礎的読解
 - ・『史記』を中心とした史話の基礎的読解・代表的な漢詩の理解
- * 古典文法の基礎力の伸長 * 基本的な漢文句法の定着

社会科（地歴・公民科） 5 学年 <世界史 A・IM 世界史 A>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

5 学年の目標/伸ばしたい力

19 世紀から現在までを中心とする世界史の展開過程を学習し、現代の諸課題について様々な視点や立場から歴史的背景をふまえて考察できるような歴史的思考力を培うことを目標とします。将来、どのような進路（分野）に進むにしても、現代の国際社会で活躍するグローバル人材として不可欠な基本的な内容を理解させ、現代世界史の大きな流れを概観できるようにし、現代の諸課題について多面的に考察し議論できる論理的思考力や発信力をのばしていきます。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地歴・公民科）で 5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。3 つの観点の合計点は 30 点で、社会科（地歴・公民科）共通です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解 (10 点)	A: 期末テスト、学習の振り返り（まとめ）等から、歴史的知識やその知識の歴史的意義に関して理解および活用の程度を評価します。
規準 B 応用と分析 (10 点)	B: 期末テスト、授業中の学習活動（プレゼンテーション、議論）とその振り返り（まとめ）、エッセイ・レポート課題等において、史料や歴史的なデータの分析に基づいて、歴史的な事象や流れ、概念を説明する力の程度を評価します。
規準 C 知識の統合 (10 点)	C: 期末テスト、授業中の学習活動（プレゼンテーション、議論）とその振り返り（まとめ）、エッセイ・レポート課題等において、幅広い視野に立って歴史的な事象やデータ、概念を関連付ける力の程度を評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度 思考・判断・表現 資料活用 知識・理解	授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。 上記の観点 B・C に対応します。 上記の観点 B・C に対応します。 上記の観点 A に対応します。
---------------------------------------	--

学習内容

<1 学期>

- 近代市民革命・産業革命
 - …アメリカ独立革命、フランス革命などの市民革命と、イギリスで起こった産業革命が国民国家形成にどのような影響を与えたのかを考えていきます。
- 自由主義とナショナリズム
 - …市民革命と産業革命によってどのようにヨーロッパで国民国家が形成されていったのか、それはアジアの諸地域にどのような影響を与えたのかを考えていきます。

<2 学期>

- 第一次世界大戦と戦間期の世界
 - …帝国主義出現の影響や総力戦としての第一次世界大戦の意義、および戦争が世界に与えた影響について考えます。
- 戦間期
 - …第一次世界大戦の反省のもと、平和をめぐる様々な試みがなされたにも関わらず、なぜそれが崩れていったのか考えていきます。
- 第二次世界大戦と戦後の世界
 - …第二次世界大戦はなぜおこったのか、様々な立場にたって考えていきます。

<第 3 学期>

- 戦後の世界
 - …国際連合はどのような原則に基づいて設立されたのか、冷戦とはどのような体制か、東西対立は具体的にどのようなかたちで世界秩序を規定したのか、考えていきます。
- 第三世界の台頭と多極化
 - …1950 年代後半から 1970 年代にかけての世界の動きについて、冷戦の枠組みとは異なる動きがどのように現れ、それらがどのように世界に影響を与えたのか、考えていきます。
- 冷戦の終結と 21 世紀の世界
 - …1989 年における体制転換の背景を理解するとともに、冷戦終結の意義と終結後の世界の課題について、様々な立場や視点から考えていきます。

社会科（地歴・公民科） 5 学年 <日本史 A>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

5 学年の目標/伸ばしたい力

19C から現代にいたる日本近現代史について学習します。日本近現代史の理解には、政治や経済などすべての分野で対外関係を意識していかなければなりません。日本の政権担当者、もしくはその組織がどのような仕組みで、判断をくださったのか。ただ単に、その結果を”知る”ことが目的ではありません。

当時の世界と日本の状況を包括的に把握して、その政策や決定に対する検討や評価を行い、あわせてその延長線上に位置づけられる現在の日本について考察力・洞察力を身につけていくことを目的とします。

日本史関係科目では、とくに資料・史料（日記・絵画等を含む）の読解を重視します。

評価規準

評価方法

ISS 社会科（地理歴史科・公民科）では、5 年生と 6 年生を対象に設定した次の 3 つの観点（評価規準）に基づいて評価します。なお、3 観点の合計点は 30 点です。3 つの観点を総合して、各学期の評価を 10 点法で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解 （10 点）

A: 平常テスト、授業中の学習活動・課題等から、歴史的知識に関する理解度および活用の程度を評価します。

規準 B 応用と分析 （10 点）

B: 平常テスト、授業中の学習活動・課題等から、関連度の高い歴史的知識を応用し、分析を裏付けたり、様々な史資料分析し、解釈できているかを評価します。

規準 C 知識の統合 （10 点）

C: 平常テスト、授業中の学習活動・課題や調査において、情報を統合し活用できたかを評価します。

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 3 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 B・C に対応します。
上記の観点 A に対応します。

学習内容

教科書「日本史 A 現代からの歴史」（東京書籍）

資料集「新詳日本史」（浜島書店）

日本近現代史について、政治・経済・外交・文化等の側面から学習していきます。

主な学習内容は、以下の通りです。

<第 1 学期>

- ・ 19 世紀の日本史

<第 2・3 学期>

- ・ 20 世紀の日本史

詳細は授業時に示します。

数学科 5 学年 < 数学Ⅱ / 数学B >

6 か年を通した目標

6 か年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

5 年次では、「数学Ⅱ」(4 単位)、「数学B」(2 単位)、DP 数学 (3 単位) の 3 科目を開講します。特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

5 学年の目標/伸ばしたい力

学習内容や数学的プロセスに基づき、継続的に以下の力の育成を図っていきます。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定する力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

評価規準

- 規準 A 知識・技能
- 規準 B プロセスと振り返り
- 規準 C 数学的コミュニケーション
- 規準 D 学習への取り組み

評価方法

規準 A 知識・技能

数学の知識とスキル (技能) に関する理解について、主に筆記テストを通して、評価します。

規準 B プロセスと振り返り

現実場面の問題を数学的モデルを用いて解決したり、数学の事象の中から問題を見出したりする力、またそれらプロセスを振り返り統合的・発展的に考えていく力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。

規準 C 数学的コミュニケーション

適切な数学の記号と言語を用いて、事実、概念、手法、結果、結論を伝える力を、レポートや筆記テスト等を通して、評価します。

規準 D 学習への取り組み

数学の学習への取り組みを、授業での活動や提出物等を通して、評価します。

学習内容

『TGUISS 数学 5・6』を使用しながら、次のような学習を行います。

数学Ⅱ

① 座標幾何Ⅰ (図形と方程式・不等式) [4月～6月]

直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し、それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに、その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に、その基本的な手法やその考え方を学びます。

(主な学習内容) 点と直線, 円, 軌跡と領域

② 三角関数 [7月～10月]

具体的な事象の中から周期的な変化を見出し, 三角関数を用いて表現・処理し, 問題を考察し, 解決することができるようにします。

(主な学習内容) 一般角, 弧度法, 三角関数の相互関係, 三角関数のグラフ, 三角関数の加法定理

③ 極限と微分積分の考え [11月～3月]

具体的な事象の考察を通して, 極限概念を理解するとともに, 極限の考えを用いて微分の考え, 積分の考えを理解し, それらの関係を見出すことができるようにします。また, これらを事象の考察・処理に活かすことができるようにします。

(主な学習内容) 極限, 微分係数, 導関数, 導関数の応用, 不定積分, 定積分, 面積

数学B

① ベクトル [4月～10月]

ベクトルや媒介変数表示について基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, ベクトルの有用性を認識し, それらを用いて事象を数学的に考察し表現できるようにします。

(主な学習内容) 平面上のベクトルとその演算, 平面上のベクトルと図形, 空間座標, 空間のベクトル

② 座標幾何Ⅱ (いろいろな曲線・曲線のいろいろな表し方) [11月～3月]

直線や曲線などの平面図形に関する条件を適切な座標系や式を用いて表現・処理し, それらの図形の性質や関係を見いだしたり確かめたりできるようにするとともに, その方法を事象の考察に活用できるようにします。ここでは特に, 平面図形のさまざまな代数的表現を学びます。

(主な学習内容) 2次曲線, 媒介変数と極座標

※授業進度や実態に応じて順番を入れ替えたり, 内容を加えたりする可能性があります。

理科 5 学年 <SS 物理基礎>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「物理」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

5 学年の目標/伸ばしたい力

SS 物理基礎は、本校の SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Physics の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識

それらをふまえて、物理的な事物・現象についての観察、実験などをおこない、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を修得する。

評価規準	評価方法
規準 A 知識と理解	【A】 科学的概念や知識の理解・活用について定期テストなどで評価する。
規準 B 探究	【B】 モデル・シミュレーションの活用、論理的展開や数理科学に基づく表現、科学概念の一般化・抽象化や仮説を系統的に組み立てた説明等をレポートや定期テスト等で評価する。
規準 C 実験観察の技能	【C】 実験操作技能について、実施状況とレポート等で評価する。
規準 D データ処理 (含む分析)	【D】 データ処理の信頼性、分析ツールや統計的处理、科学的推論、科学的知識の活用・応用などを実験レポート等で評価する。
規準 E 評価	【E】 実験の方法やデザインを評価し、そのデータや結論の妥当性について検討するなどの評価活動をレポート等で評価する。
規準 F 科学による影響の振り返り	【F】 具体的な問題または課題、技術の発展に科学がどのように応用されているか説明し、それが社会に与える影響などについて論じたレポート等で評価する。

学習内容

運動や力のはたらき、仕事とエネルギー、音波などの波動、電気と人間生活などの単元を通して、身近にある自然現象や応用技術など私たちの生活と物理学の関わりについて学びます。

<力学・運動領域>

1. 運動の表し方：速さと速度、加速度
2. 運動の法則：力の運動の関係、運動の三法則、抗力（摩擦力など）
3. 仕事とエネルギー：仕事、力学的エネルギー、熱

<波動・電磁気領域>

4. 電気：電気と電流、電気回路、電流と磁界、電磁誘導、電磁波
5. 波動：波の性質、伝わり方、種類、波の重ね合わせ、反射
6. 音波：音波の性質、伝わり方、共振・共鳴

※進度に応じて順序および内容を変更することがあります。

理科 5 学年 <SS 化学基礎>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

5 学年の目標/伸ばしたい力

SS 化学基礎は、本校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識

評価規準

規準 A 知識と理解
規準 B 探究
規準 C 実験・観察の技能
規準 D データ処理
規準 E 評価
規準 F 科学による影響の振り返り

評価方法

実験の取り組み
実験ノート
レポート提出物
探究活動
テスト

学習内容

SS 化学基礎は、本校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識。

下記の学習内容の学習を通して、身近にある自然現象や応用術など私たちの生活と化学との関わりについて学ぶ。

- ・化学と人間生活
- ・物質の構成
- ・物質と化学結合
- ・物質の変化

教科書：「化学基礎」実教出版

問題集：「セミナー化学基礎」第一学習社 等

SS 理科 5 学年 <生物 IM>

6 か年を通した目標

自然に対する関心を高め、「生物」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

5 学年の目標/伸ばしたい力

生物 IM は、本校のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業の一環として開設する科目である。具体的には、IBDP Group4 Chemistry の趣旨を取り入れた授業を行い、以下を身につけることを目指す。

- ・個人による実験デザインを可能にするための科学的知識および実験・観察スキルの定着。
- ・ディスカッションやグループ実験を通して養うチームワーク力。
- ・データ処理、シミュレーション、表現・発信のツールとして ICT 活用能力。
- ・科学技術の可能性とその限界への理解と意識

評価規準

規準 A 知識と理解
規準 B 探究
規準 C 実験・観察の技能
規準 D データ処理
規準 E 評価
規準 F 科学による影響の振り返り

評価方法

観察の取り組み
レポート提出物
ディスカッション
課題研究
テスト

学習内容

論文購読、ディスカッション、分子設計のシミュレーションを中心とした授業展開を通して、SS 生物基礎(4年)で学んだ内容をさらに発展させ、科学英語での文章作成やディスカッション能力を養います。

< 1 学期 >

- ・生命とは
- ・細胞
- ・分子生物学

< 2 学期 >

- ・タンパク質の構造と機能

< 3 学期 >

- ・タンパク質工学

※状況に応じて学習内容の順序が変わることがあります。

保健体育科 5学年 <体育>

6か年を通した目標

国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上のための基礎・応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

5学年の目標/伸ばしたい力

健康に関する基礎的な知識や概念を理解するとともに、学習内容を十分に活用することができる。

運動の原則やルール、高度な戦術を考えることができる。

一連の動きや技の構成などが洗練され、美的でスムーズに展開するとともに、表現豊かに運動することができる。

より複雑な運動に対して必要な技術を習得し、それを利用して課題解決を図ったり、他者にも示したりすることができる。

個人やグループで、優れた作戦や戦術を使って攻防したり、挑戦したりすることができる。

他者との連携を図るために、協力したり責任感を持って取り組んだりするとともに、効果的なコミュニケーション力を発揮しようとするすることができる。

学習カードの提出等、決められた約束を守ったり、他者と協力して懸命に取り組んだりすることができる。

各運動種目における専門的な知識を深めながら技能を高めることができる。

種目選択においては技術的な向上だけでなく、各競技を運営していくための能力を養うことができる。

評価規準

運動の理解と応用
運動の技能
活動への個人的取り組み

評価方法

学習ノートの活用・内容、種目の特性理解
各種目の実技テスト、試合におけるパフォーマンス
授業への取り組み

学習内容

<男子>

- ① 体づくり運動／スポーツテスト：4月～5月
- ② 陸上競技Ⅴ（走り高跳び）：5月～6月
- ③ アクアティックスポーツⅤ：6月～9月
- ④ 球技Ⅷ（バレーボール）：9月～10月

<女子>

- ① 体づくり運動／スポーツテスト：4月～5月
- ② 球技Ⅷ（バレーボールⅡ）：5月～6月
- ③ アクアティックスポーツⅤ：6月～9月
- ④ 陸上競技Ⅴ（跳躍種目）：9月～10月

<男女共修>

- ① 選択種目Ⅰ（バスケットボール・ソフトボール・テニス）：10月～12月
- ② 選択種目Ⅱ（バドミントン・卓球・アルティメット）：1～3月

※公開研究会等の都合により、学習の順番が前後することがあります。

保健体育科 5学年 <保健>

6か年を通した目標

国際社会の一員として心と体を一体としてとらえ、健康・安全についての理解を通して、自身の健康を保持増進する能力の育成をめざす。健康に関する基礎や応用を学び、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

5学年の目標/伸ばしたい力

心身の健康を保持増進するために必要な知識を身につけ、その概念を十分に理解したうえで実生活に結びつける能力。

健康に関する学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚して果たす能力。

他者との連携を図り、協力や責任力を持って行う力。コミュニケーション力を発揮しようとする力。レポートなどの提出物等決められた約束を守る力。

評価規準

保健の知識と理解
授業への個人的取り組み

評価方法

期末試験 課題（提出物）の内容
ノートの提出・レポートの記述内容・取り組み等

学習内容

- ① 生涯を通じる健康（4月～6月）
- ② 健康を支える社会の取り組み（6月～10月）
- ③ 社会生活と健康（10月～3月）

芸術科 5 学年 <音楽Ⅱ>

6 年を通した目標

国際社会の一員として必要となる豊かな情操を養っていくために、表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、創造的な音楽性を培う。

5 学年の目標/伸ばしたい力

- 1 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものに、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。
- 2 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、より高度な表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。
- 3 多様な音楽に対する理解を深め、活動を通し主体的に鑑賞する

評価規準	評価方法
規準 A 分析と探究	音楽分析 学習中の楽曲に対し、作曲者や時代背景、また、和音や構成、歌詞の読解などを含む音楽的な分析をします。
規準 B 発想と表現	歌唱テスト・器楽演奏・言語を含めた楽曲の編曲 楽譜などから読み取れる音楽的な指示や、作品の曲調から適切かつ効果的な表現を追求していきます。
規準 C 芸術への態度	作品へ向かう姿勢やスキル修得のための姿勢などから評価します。 プロセスの記録や動画記録などから意欲、態度を評価します。

学習内容

「表現」

多様な音楽ジャンルにおける 5 部合唱から 6 部合唱の響きへと、相互の表現力を高めていきます。楽曲の和声的、形式的理解や、純正律を意識しながらハーモニーをつくることを、授業を体験しながら理解を深め、高度なコーラスを目指します。

- ・旋律、およびハーモニーの学習
イタリア歌曲を中心に、ソロで歌うことの魅力を体験しながら、メロディアスな表現力と感性を深めていきます。また、クロスハーモニーの表現方法を追求し、和声（ハーモニー）の方向性や性質を理解していきます。
- ・音楽表現に関わる高度な学習
多様なジャンル、音楽体系の表現方法を追求し、幅広い音楽に普遍的に表現できる力を育てていきます。特に、即興を含む表現力やアンサンブルの技能を伸ばしていきます。
- ・楽曲分析に基づく表現の学習
方向性のある音楽づくりという観点で、理論・感性に基づく自己表現方法を追究します。また、作曲・編曲の理論とも合せながら、分析力を高めていきます。
- ・アンサンブル
自らのアンサンブル表現を追求し、互いの演奏を鑑賞することを通して批判力、分析力を高めていきます。

「創作」

ソルフェージュの内容もふまえつつ、モチーフを活かした単旋律の創作や、基礎和声の範囲での和音付けなどの編曲を行います。生徒の進路に合わせ、ジャンルに合わせた創作作品に取り組みます。

- ・ソルフェージュ
新曲視唱、聴音、リズムの書き取りなどソルフェージュ
- ・和声（和音）の学習
基礎和声学やポピュラー音楽などの視点から和音の学習をおこないます。

「鑑賞」

初期の音楽からコンテンポラリーまでの幅広い時代の音楽鑑賞を通して、

それぞれの時代の作品や作風、技法などを捉えながら鑑賞力を高めていきます。

- ・ルネサンス期～現代までの音楽鑑賞

中世ヨーロッパの音楽を体験的に鑑賞しながら、時代の推移に合わせて音楽がどのように発展し、そして現代にまで至るのか、理解していきます。

- ・総合芸術

オペラやミュージカル、映画などの作品を音楽的に分析し、かつ演出や舞台装飾などの関わりも合わせて知識を身に付けていきます。

芸術科 5 学年 <美術Ⅱ>

6 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

5 学年の目標/伸ばしたい力

美術科では6年間で3段階に分け、基礎美術、発展美術、創造美術と位置づけます。3つの段階を学習することにより、基礎から応用まで無理なく楽しみながら学習活動ができるようにします。なお、後期課程からは芸術科は選択科目になります。

美術教室の中での活動だけでなく、学校図書館や美術館等の施設を積極的に活用し、美術に対する関心・意欲や鑑賞力・創造力を高めていきます。

5年生は多様な表現や文化への関心を持ち、豊かな感性を持って創造する力を高める時期と捉え、授業を展開していきます。

評価規準

規準 A 分析と探究

規準 B 発想と表現

規準 C 芸術への態度

評価方法

アートプロセスジャーナル、レポート

作品、スケッチ、アートプロセスジャーナル

アートプロセスジャーナル、学習態度

学習内容

1) 作品

主題をもとに様々な分野の表現方法を試して制作・鑑賞しながら、創造的スキルを高め、自分の意図に合った表現方法を模索します。

(主な学習内容・活動内容) 絵画、彫刻、デザイン、映像メディア表現、スケッチ

2) アートプロセスジャーナル

作品制作と関連して、学習をより深める為に追究すべきことを設定し記録します。

(主な学習内容・活動内容) 美術の文化・歴史・作家・作品・表現の調査と分析、表現技法の研究、アイデアスケッチ、自他の表現の振り返りと評価

*行事等授業時数の関係で内容が多少変更することがあります。

芸術科 5 学年 <書道Ⅱ>

3 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

5 学年の目標/伸ばしたい力

5 年生の芸術書道は、書道における専門的な知識の学習を行うとともに、古典の臨書学習を通し、書道における伝統的な表現の方法を学び、豊かな芸術表現活動ができるようにします。書の様々な表現に触れながら、書における文化的活動の体験を通して、豊かな感性を育むとともに芸術への関心を深めます。

評価規準

評価方法

規準 A 分析と探究

規準 B 発想と表現

規準 C 芸術への態度

学習した芸術的な内容や理論的根拠などに関する知識や理解について授業ごとのワークシートやレポートなどを通じて評価します。

鑑賞した古典や作品の制作過程への考察、またはそれらが制作された意図や時代背景への学びを起点とし、書文化全体への興味・関心を深めることができたかをワークシートやレポートを通じて評価します。

芸術を表現とコミュニケーションの一形態として活用できる力や、発想や主題を構成して具体化する力、作品と作品制作を行う過程などを通じて評価します。

書の表現に必要な基本的なスキルと適切な用具用材の扱い方なども評価します。

自分の作品について充分考えることができたか、発想を自己の技術により具体化するだけでなく、作品制作の過程においても十分な工夫ができたか、またふり返りとフィードバックできたかを学習活動やワークシートを通じて評価します。

制作期限を守って作業をしたか、前向きな制作環境を作って作業したか等についてもワークシートや授業態度などを通じて評価します。

学習内容

【1 学期】

●書道Ⅰの復習と書道Ⅱの導入

●漢字の書の学習

採扱体験/書体の変遷

篆書の成立・特徴/篆書の基本用筆/臨書学習①「泰山刻石」「石鼓文」「甲骨文」

隸書の成立・特徴/隸書の基本用筆/臨書学習②「礼器碑」

行書の特徴と書風比較/臨書学習③「集王聖教序」

●篆刻

篆刻の方法と手順/落款印の制作

【2 学期】

●仮名の書の学習

仮名の用筆の復習/散らし書きの鑑賞と方法/臨書学習①「寸松庵色紙」「升色紙」「継色紙」

表現と鑑賞の関連/鑑賞を見据えた作品づくり/創作作品制作（仮名、散らし書き）料紙作り、

紙の加工/表具

●実用書（年賀状）

【3 学期】

●漢字仮名交じりの書の学習

漢字と仮名の調和、書く言葉の内容と表現の関係/古典を生かした表現/創作作品制作

外国語科 5 学年 <英語 5a 英語 5b コミュニケーション英語 II>

6 年を通した目標

習熟度に相応するレベルでの英語による言語活動を通して、言語能力全般の伸長をめざします。生活言語能力にとどまらず、抽象的な概念操作が可能な学習言語能力の獲得が目標です。

5 学年の目標/伸ばしたい力

各クラスによって取り扱う Phase は異なります。各評価規準を基本に言語運用能力および学習言語能力を伸ばします。(以下 Phase 5)

At the end of phase 5 (Proficient level), students should be exposed to a wide variety of complex authentic spoken multimodal texts and be able to:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections.

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections.

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in a comprehensible manner
- iv. during interaction, communicate all or almost all the required information clearly and effectively.

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context.

評価規準 Phase 5-6

- 規準 A リスニング
- 規準 B リーディング
- 規準 C スピーキング
- 規準 D ライティング

評価方法

- テスト
- テスト
- スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー
- 作文、エッセイ、テスト

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

- 観点 1 関心・意欲・態度
- 観点 2 思考・判断・表現
- 観点 3 技能
- 観点 4 知識・理解

学習内容

5年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【英語 5 a / 英語 5 b】

クラス名	5 a/b英 1	授業名	教科書基礎	秋森 久美子
------	----------	-----	-------	--------

文部科学省検定教科書を中心に授業を進め、基礎から復習します。毎回の授業には予習・課題に取り組んだ上で臨んでもらいます。可能な限り到達点をはかる確認を行い、評価をします。

クラス名	5 a/b英 2	授業名	教科書発展	Matthew Chadwell
------	----------	-----	-------	------------------

文部科学省検定教科書を扱いながら授業を進め、速読を中心に様々な活動を行います。教科書の内容重視となるため、文法課題演習は自主的に行ってください。評価にあたっては、長文読解・文法・リスニング（ビジュアル情報を含む）・アカデミックライティング・ディスカッションやプレゼンテーション等、多様な課題全てを含みます。

クラス名	5 a/b英 3	授業名	資格試験対策Basic	久保 達郎
------	----------	-----	-------------	-------

この授業では、今後大学入試等で利用されるIELTSやTEAPなどの資格試験でより良い点数をとるための基礎的なトレーニングを行います。各資格試験の様式に慣れるため、問題別の演習を行ったり、基礎力となく単語や文法の強化を行ったりします。また、期末試験等は各資格試験の問題形式に沿った形でいきます。

クラス名	5 a/b英 4	授業名	資格試験対策Advanced	Nina Galindo
------	----------	-----	----------------	--------------

この授業では、海外大学進学の際に利用されるTOEFLなどの資格試験でより良い点数をとるための発展的なトレーニングを行います。各資格試験の形式に慣れるため、問題別に演習します。基礎力となく単語や文法の強化を行いつつ、発展的な活動を主に扱います。また、期末試験等は各資格試験の問題形式に沿った形でいきます。

クラス名	5 a/b英 5	授業名	Advanced English I	Mark Fisher
------	----------	-----	--------------------	-------------

What will we do? We will learn to think logically and critically, argue fairly and effectively, and act with justice and compassion. How? By researching difficult social issues and debating them formally. Why? To become wise and powerful forces for good in the world.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを2回もしくは2種類以上受検すること（種類は問わない）を推奨します。

外国語科 5 学年 <英語表現 I >

6 か年を通した目標

言語学習が目的ではなく、英語で身近なところから世界規模の様々な問題を扱い、知識を蓄え、問題を発見、分析、解決していく力を育みます。

5 学年の目標/伸ばしたい力

5 年次では、英語を通して、世界中の様々な時代における興味深い話題を集めた教材をもとに、語彙を増やし、読解力を高め、分析、評価を伴うプレゼンテーション能力やディスカッションする力を身につけていきます。海外ワークキャンプに必要な多様なスキルを身につけるとともに実践していきます。

At the end of phase 5, students should be able to:

Criterion A: Communicating in response to spoken, written and visual text

- i. respond appropriately to spoken, written and visual text
- ii. engage in rehearsed and unrehearsed exchanges to share ideas on a range of topics of personal and global significance
- iii. express ideas, opinions and feelings, and communicate information in a wide range of situations
- iv. communicate with a sense of register, purpose and style.

Criterion B: Using language in spoken and written form

- i write and speak using a range of vocabulary, complex grammatical structures and conventions; when speaking , use intonation and fluency
- ii . organize information and ideas; use a wide range of cohesive devices
- iii . use language to suit the context.

評価規準

規準 A コミュニケーション
規準 B 言語の使用

評価方法

スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー、エッセイ
作文、文法問題、エッセイ、テスト

学習内容

5 年次では、自分の目的や興味関心に応じて自己の判断で授業を選択することができます。

【英語表現 I】

クラス名	5 英表 I 1	授業名	Core Basic Expressions	Matthew Chadwell
------	----------	-----	------------------------	------------------

In this class we will learn about various topics in English and talk/write about them

クラス名	5 英表 I 2	授業名	Basic English Expressions	Nina Galindo
------	----------	-----	---------------------------	--------------

In this class we will learn about various topics in English and talk/write about them

クラス名	5 英表 I 3	授業名	Discussing cultural and current issues (Basic)	Mark Fisher
------	----------	-----	--	-------------

Learning about various cultural and current topics and discussing them.

クラス名	5 英表 I 4	授業名	Discussing cultural and current issues (Advanced)	小松 万姫
------	----------	-----	---	-------

Learning about various cultural and current topics and discussing them.

クラス名	5 英表 I 5	授業名	English Output Writing	Rab Paterson
------	----------	-----	------------------------	--------------

This course will cover all aspects of modern professional presentations in detail. To begin with we will cover the four basic areas of presentations - Advance Planning, Appropriate Content, Advantageous Structure, Amazing Design, and then finish with Awesome Delivery. These are what I call the 5 A's of presentations. When we have covered these in detail students will then have numerous opportunities to practice giving presentations at the necessary level.

資格取得・検定受験

将来に備えて、英語に関わる資格である英検・TOEFL・TOEIC・SAT・IELTS のいずれかを2回もしくは2種類以上受検すること（種類は問わない）を推奨します。

外国語科 5 学年

国際教養群

<英語以外の言語：フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・韓国朝鮮語>

6 か年を通した目標

国際教養の科目として、多文化理解を深め、コミュニケーションスキルを育成し、英語以外の言語の言語能力の獲得を目指します。

5 学年の目標/伸ばしたい力

4 学年より引き続き、英語以外の言語の中級の言語能力の獲得を目指します。

At the end of phase 1 (Emergent Level), students should be able to do the following in simple authentic texts:

Criterion A: Listening

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion B: Reading

- i. identify explicit and implicit information (facts and/or opinions, and supporting details)
- ii. analyse conventions
- iii. analyse connections

Criterion C: Speaking

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. use clear pronunciation and intonation in comprehensible manner
- iv. communicate all or almost all the required information clearly and effectively

Criterion D: Writing

- i. use a wide range of vocabulary
- ii. use a wide range of grammatical structures generally accurately
- iii. organize information effectively and coherently in an appropriate format using a wide range of simple and some complex cohesive devices
- iv. communicate all or almost all the required information with a clear sense of audience and purpose to suit the context

評価規準 Phase 1	評価方法
規準A リスニング 規準B リーディング 規準C スピーキング 規準D ライティング	テスト テスト スピーチ、プレゼン、ディスカッション、インタビュー 作文、文法問題、エッセイ、テスト

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

- 観点1 関心・意欲・態度
- 観点2 思考・判断・表現
- 観点3 技能
- 観点4 知識・理解

学習内容

各言語の発音、語彙、文法を学び、話す、聞く、読む、書く力を総合的に学びます。また各言語圏の文化の理解を深め、コミュニケーション活動を通して、異文化を理解しようとする態度や関心を育成します。

フランス語

教科書とプリント教材を使用し、中級レベルの文法を学びながら、日常会話を中心にコミュニケーション活動のためのフランス語習得を目指します。また、フランス語圏の国々の文化への興味・関心の育成を目指します。

スペイン語

教科書と講師オリジナルのプリントを使用して、中級レベルの文法を学びながら、すぐに役立つ日常会話も学びます。映像や音楽を通して、スペイン語圏の文化や暮らしを学ぶことを大切にして学習を進めていきます。

ドイツ語

ドイツ語の中級レベルの知識、日常表現の習得を目指します。授業ではCDやDVD教材なども使用し、実際にドイツ語を使う場面を想定した練習をしたいと思えます。音楽や文学、スポーツなど、ドイツ語圏の文化にも触れる予定です。

中国語

教科書とプリント教材を使用し、中級レベルのコミュニケーションのための中国語を勉強しながら、中国及び中国語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

韓国/朝鮮語

教科書とプリント教材を使用し、中級レベルのコミュニケーションのための韓国/朝鮮語を勉強しながら、その言語を話す地域の文化や歴史などへの興味・関心の育成を目指します。

6 か年を通した目標

4 年次（2 単位）と 5 年次（2 単位）で英語で様々な地球規模の今日的課題について学び、考え、自分の意見をまとめる力をつけることを目標とします。

5 学年の目標/伸ばしたい力

4 年次に引き続き、知識と概念を理解し、それらを様々な社会的、文化的、歴史的、個人的な文脈において活用できる力と、コミュニケーション能力の育成を目指します。

MYP 評価規準

規準 A 知識と理解
 規準 B 調査研究
 規準 C コミュニケーション
 規準 D 批判的思考

評価方法

インタビュー、ワークシート、作品、テスト
 スピーチ、プレゼンテーション、インタビュー、ディスカッション

学習内容

以下のようなトピックを、じっくり時間をかけて多角的に取り扱うことを予定しています。
 ・国際紛争、国際貢献（国際連合、ソーシャル・ビジネス）、南北問題

家庭科 5 学年 <家庭基礎>

6 か年を通した目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

5 学年の目標/伸ばしたい力

衣食住生活や家族のことなど、家庭生活を営むうえで必要な知識や技術を養い、生活を取り巻く環境にも意識を向けて、自分の生活をより豊かにするような主体的な取り組みを積極的にできる能力と態度を育てる。

- 家庭や地域の調査
 - 衣食住の特徴を理解し、家庭生活に必要な情報を得られたか。
 - 課題または、製品作りでどのようなものが求められるかをまとめられたか。
- 生活上の課題の整理
 - ライフスタイルを考え、想定される要素について理解し、考えることができたか。
 - 課題を解決できるような素材の性質や状況を活かした考えができたか。
- 解決方法の計画
 - 課題解決に向けて、必要な条件を満たして、計画を立てることができたか。
 - ノートやレポートに記録をつけられたか。
- 実践
 - 課題解決または、想定された条件を満たす製品を作ることができたか。
 - 必要な用具や機械の仕組みを理解し、正しく安全に使用することができたか。
- 評価
 - 実践結果または、製作物の客観的な自己評価ができたか。
- 生活に関連した消費や環境における態度
 - 人間の生産活動と生活および地球環境の関わりを考えることができたか。

評価規準

- 規準 A 探究と分析
- 規準 B アイデアの発展
- 規準 C 課題解決
- 規準 D 評価

評価方法

- レポート、各課題の提出状況、授業準備、定期テストなど
- レポート、各課題の提出状況、授業準備、定期テストなど
- レポート、各課題の提出状況、授業準備、定期テストなど
- レポート、各課題の提出状況、授業準備、定期テストなど

学習内容

- (1) 人の一生と家族・家庭 (青年期の自立と家族や家庭・子供の発達と保育)
- (2) 福祉 (高齢期の生活・共生社会と福祉)
- (3) 生活の自立 (食事と健康・被服管理と着装・住居と住環境)
- (4) 消費と環境 (消費生活と生涯を見通した経済の計画・ライフスタイルと環境・生涯の生活設計)
- (5) ホームプロジェクト (家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践する。)

情報科 5 学年 <インフォマティクス>

6 年を通した目標

身のまわりの様々な活動において、情報や情報手段を活用した問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得するとともに、実際にそれらを活用し、チームで協働して問題解決を実践する能力と態度を身につける。

5 学年の目標/伸ばしたい力

- これまでの情報の授業で習得した知識や技能を活用して、実践的な問題解決に応用する機会としてチームでプロジェクトを遂行し、情報活用の実践力を高める。
- 問題の発見、明確化、分析及び解決の方法を身につけ、問題解決の目的や状況に応じてこれらの方法を適切に選択し、プロジェクトとして実行できる。
 - 問題解決におけるデータや I C T の活用方法を身につけ、情報を活用することの有用性を理解する。
 - モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解し、実際の問題解決に活用できる。
 - 情報を蓄積し管理・検索するためのデータベースの概念を理解し、問題解決にデータを活用できる。
 - 問題解決の過程と結果について評価し、改善することの意義や重要性を理解する。
 - 創造的思考力と合理的判断力を身につけ、問題解決の実践力を高める。
 - チームのメンバーと協働でプロジェクトを遂行するとともに、協働作業（プロジェクト）における自分の役割や特長を理解し、将来（社会）生かせるようにする。

評価規準	評価方法
規準 A 探究と分析 (8)	評価は、プロジェクトなどのタスク単位の課題および成果物・レポートを対象とし、4 つの評価規準に基づいて行う。
規準 B 開発と技能 (8)	
規準 C 問題解決の総合実践 (8)	
規準 D 評価と改善 (8)	

学習内容

授業の展開はプロジェクトで構成し、あわせて各プロジェクトに対応した講義と実習を展開する。プロジェクトは個人もしくはチーム（グループ）で行い、学校内外のイベントと連携したり、他校（大学を含む）と連携して協働するとともに、外部評価をうけたり改善の手立てとする。プロジェクトはタスク単位に分割して展開するが、実習内容の順序が時間的に前後する場合があるので、授業を通して配布される教材や成果物をファイリングするなど各自で学習内容の管理に努めること。

- プロジェクトを通して学習するポイント
- 《科学コミュニケーション：コミュニケーションを支援する I C T 活用》
 - 《プロジェクトマネジメント：チームプロジェクトの進め方と合意形成のための情報活用および表現の工夫》
 - 《モデル化とシミュレーション：問題解決のためのモデル化とシミュレーションの活用》
 - 《I C T を活用したソリューション：Web アプリケーション開発もしくはサービスのプロデュース》

- 学習内容
- 〈問題解決を支える情報科学〉
 - ・問題解決とコンピュータの活用（表計算とシミュレーション）
 - ・問題解決におけるモデル化とシミュレーション（セルオートマトンシミュレーション等）
 - ・実験計画と統計的探究と実験計画（シミュレーションの活用・検定など）
 - 〈創造的思考力を支えるプログラミングスキル〉
 - ・プログラミング言語の探究（Java Script+Encaht.js）《Super Shape Shot》
 - ・Web アプリの開発環境の構築（Cloud9）《Web API を用いたプログラミング開発》
 - ・データサイエンスの活用（人工衛星データ）とプログラミング（Ggoogle Earth Engine）
 - 〈協働プロジェクトによるシステム開発〉
 - ・社会問題を解決するプログラミング
 - ・協働を支える情報技術（cloud9 trello）
 - ・アセスメントの方法と改善
 - ・協働とプロジェクトの評価

国際教養 1～6 学年 <国際 1～6>

6 か年を通した目標

1. 課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて、多様な文化・社会の在り方やそこで生きる人々及び様々な現象について理解を深める。また、課題解決のための方法について知る。
2. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査のために様々な方法を実践したり、得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことについて根拠を明らかにしてまとめ、表現し、異なる文化・背景を持つ他者と共有してディスカッションする力を身に付ける。
3. 国際理解・人間理解・理数探究に関わる現代的な諸課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、多様な文化・背景を持つ他者と互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
ここで国際理解・人間理解・理数探究とは、現代的な諸課題を見る3つの視点である。
 - 国際理解…自国の文化・他国の文化を含めて、多様な文化・社会の在り方について理解を深める。
 - 人間理解…社会を支える一員として、学校・地域・国・世界に生きる人々の生き方や社会の在り方について考え、思いやりの心を身につける。
 - 理数探究…身の回りや世の中の様々な事象を科学的視点から捉え、社会に活用していく方法について考える。

各学年の目標/伸ばしたい力

- 〈1年〉様々な事柄の「つながり」を意識して学習する。異なる文化・環境に生きる人々に関心を持ち、それらに対する耐性を養う。
- 〈2年〉様々な人が生きている社会と自分との関わりを客観的にとらえ、他者との適切なコミュニケーションの方法を身につける。
- 〈3年〉様々な現代社会の課題について情報を集め、自分たちとその課題の関わりについて考え、異なる文化・背景を持つ他者とも情報や意見を共有する。
- 〈4年〉自分なりの視点で現代社会の課題を見つけ、調査・探究し、現実の社会に自らアプローチする。
- 〈5年〉異なる文化・環境を持つ他者と課題を共有し、英語でディスカッションすることができる力を身につける。
- 〈6年〉社会にとって意義ある問いを立て、それに対して何らかのアクションを起こすことを目指す。また、母語でも外国語でも、異なる文化・背景を持つ他者と自分たちの社会の課題について対話し、相互協力体制を築けるような姿勢・力を身につける。

MYP 評価規準

評価方法

総合的な学習の時間は MYP の課程内ではありませんので、該当する内容はありません。

各学年の国際教養の時間、国際教養群に入っている各教科の科目によって多様な評価が行われます。

文部科学省 中学校・高等学校学習指導要領における教科の観点

各学年で開設されている「国際○」の時間は、学習指導要領では「総合的な学習の時間」（前期課程）、「総合的な探究の時間」に対応します。総合的な学習/探究の時間では、数値による評価・評定は行われず、記述による評価がなされます。

国際教養群に入っている各教科の科目に関しては、前期・後期とも各科目で観点を設け、数値による評価・評定を行っています。

〈規準例〉

- LE (外国語科)：規準 A 知識と概念 / 規準 B プレゼンテーション
- 情報：規準 A 課題に対する思考・判断 / 基準 B 課題に対する関心・意欲・態度
- Global issues：規準 A 知識と理解 / 規準 B 調査研究 / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 批判的思考
- 英語以外の言語：規準 A リスニング / 基準 B リーディング / 基準 C コミュニケーション / 基準 D 言語の使用
- 国際 B (College prep)：規準 A Knowledge, Concepts and Personal Engagement with Learning / 基準 B Test-taking Language, Skills and Improvement

国際教養群に含まれる科目・学習内容

- 1年 「国際1 (情報, 理数探究)」, 「Learning in English 1」
- 2年 「国際2」, 「Learning in English 2」
- 3年 「国際3」, 「Pre Immersion」, 「Learning in English 3」
- 4年 「MYP Personal Project/課題研究」, 「Global Issues」, 「英語以外の言語」
- 5年 「課題研究」「Global Issues」「英語以外の言語」
- 6年 「課題研究」「国際A (講座：憲法と人権・講座：国際協力と社会貢献)」「国際B (講座：文学探究・講座：応用数学・講座：College Prep・講座：ファシリテーション実践)

上記の科目・総合的な学習の時間の他に、1・3・5年のワークキャンプⅠ・Ⅱ(国内)・Ⅲ(海外)・各学年や教科で実施されるフィールドワークも学習内容に含まれます。また、1年から3年では、4年次においてPPを完成させるためのスキルを身に付ける学習活動をします。さらに、5・6年の「課題研究」は、学年の枠を越えた形態で探究活動を行います。

国語科 5 学年 DP <日本語 A 文学>

6 か年を通した目標

国際社会でよりよく生きるために、物事に対する洞察力、自己と他者とを深く理解するためのコミュニケーション能力、確かで豊かな表現力を養うとともに、日本語に対する興味・関心を高める。

5 学年の目標/伸ばしたい力

- ・異なる時代、スタイル（文体）およびジャンルの多様なテキストを読み解き、鑑賞する力
- ・個々のテキストを綿密かつ詳細に分析し、関連性のあるものと結びつけることができる力
- ・テキストの格調高さや様式的、美的な質の味わいを理解する力
- ・文化的背景の異なる人々の間で異なるものの見方があることや、それらの見方がどのように意味を構成しているかを認識する力
- ・文学作品を独自に批評する力と、そこに示す自分の考えを裏付け（根拠）に基づいて構成する力

〈評価規準別〉

規準 A 知識、理解、解釈：

- ・作品やテキストについて、理解する力を身につける。
- ・作品やテキストについての知識と理解を使用して、グローバルな問題に関する結論を導き出す。
- ・作品やテキストを参照し、裏づけとなる内容をもとに考えを深める。

規準 B 分析と評価：

- ・テキストの特徴や作者の選択に着目し、それらがどのように意味を形成するか分析する力を身につける。
- ・言語、技法、スタイルの選択に着目し、他の作品との比較を通して、それらの選択の持つ効果を分析する力を身につける。

規準 C 焦点と構成：

- ・自身の考えに一貫性を持たせ、焦点を絞って組み立て、効果的に構成する力を身につける。

規準 D 言語：

- ・学年相当の語彙・文法知識を身につけ、適切に運用する力を身につける。
- ・正確かつ明確であり、より多様な言葉遣いを身につける。

評価規準

※校内での規準

- 規準 A 知識・理解（10 点）
- 規準 B 分析（10 点）
- 規準 C 構成（10 点）
- 規準 D 言語の使用（10 点）

※IBDP での規準

- 規準 A 知識、理解、解釈
- 規準 B 分析と評価
- 規準 C 焦点と構成
- 規準 D 言語

評価方法

- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など
- レポート・発表活動など

*状況によって、評価材料の増減があり得ます。

学期ごとに評価材料と評価基準についての説明を別紙で配布します。

学習内容

IB のガイドの定める方法によって扱う予定の作品を決めます。扱う予定の作品については、コースアウトラインとともに年度初めに作品リストを提示します。このリストや現代文 B・古典 B の教科書、リストに上がった作品に関する評論をもとに学習を進めます。また複数の作品から生徒自身が扱う作品を決めることもあり得ます。

社会科（地歴・公民科） 5 学年 <DP 歴史>

6 か年を通した目標

- グローバル化が急速なスピードで進行している今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけて多面的多角的にとらえ、自分の言葉で論理的・批判的に考察し、他者に伝え説明する力を伸ばす。

DP 歴史の 2 年間（5～6 学年）の目標/伸ばしたい力

DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探究していくこととなります。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマを取り上げます。また、HL 選択項目としては四つの地域世界のうちヨーロッパ世界を中心に学習していきます。様々な史資料の分析、調査、プレゼンテーション、議論、エッセイライティングを通して歴史的思考力を高めていきます。

評価規準

評価方法

DP 歴史の次の 4 つの評価目標（評価規準、観点）に基づいて評価します。4 つの観点の合計点は 40 点です。4 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解
(10 点)

規準 B 応用と分析
(10 点)

規準 C 知識の統合と評価
(10 点)

規準 D 適切なスキルの活用と応用
(10 点)

下記の①～④の 4 つの評価対象によって評価します。①～④のそれぞれについて、A～D の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。

①各学期に実施するテスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は資料分析とエッセイライティング、Paper 2 と Paper 3 はエッセイライティングです。

②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験の形式に則って実施します。

③IA（内部評価）の歴史研究の Final Draft（最終稿）

④その他、学習状況全般：

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 4 観点は、文部科学省が高等学校における地理歴史科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度
思考・判断・表現
資料活用の技能
知識・理解

授業中の活動、エッセイ、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。

上記の観点 B・C・D に対応します。

上記の観点 B・C・D に対応します。

上記の観点 A に対応します。

学習内容

<1 学期>

○第一次世界大戦の原因・経過・結果

…Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容に対応します。第一次世界大戦の原因・経過・結果のそれぞれについて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

○戦間期前半のヨーロッパ

…Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」と Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容のうち、戦間期前半の 1920 年代の国際関係や世界の大きな動きについてドイツをめぐる動向を中心に取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

<2 学期>

○戦間期後半のヨーロッパ

…Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 2：ドイツとイタリアの拡張政策（1933～40 年）」の内容に対応します。戦間期後半の 1930 年代のヨーロッパの動きについて取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 3-14「両大戦間のヨーロッパ諸国（1918～39 年）」の内容のうちスペイン内戦の原因と経過について詳しく取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

○ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果

…Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容を中心にして、Paper 3-15「ヴェルサイユからベルリンへ：ヨーロッパの外交関係（1919～45 年）」の内容ともオーバーラップさせながら、ヨーロッパにおける第二次世界大戦の原因・経過・結果のうち経過を中心に取り上げて、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

<第 3 学期>

○アジア太平洋における第二次世界大戦の原因・経過・結果

…Paper 1-3「世界規模の戦争への動き」の「事例研究 1：東アジアにおける日本の拡張政策（1931～41 年）」の内容に対応します。満洲事変から真珠湾攻撃までの東アジア情勢について取り上げるとともに、資料分析の手法を身に付けていきます。また Paper 2-11「20 世紀の戦争の原因と結果」の内容として、アジア太平洋における第二次世界大戦の経過について取り上げ、様々な観点から比較・対比し、歴史的な評価を加えていきます。

<年間を通して> 上記のほか、IA（内部評価）の「歴史研究」にも取り組みます。

★ 詳細については第一回授業で配布する「DP 生徒用ガイド：History HL」および「DP History subject outline：DP 歴史 2 年間の学習予定」を参照してください。

数学科 5年<DP Mathematics Applications and Interpretation SL>

6か年を通した目標

6カ年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

国際社会の一員として、適切に判断し行動できる人間になるために、
数学的リテラシーを育むとともに、数学に対する興味・関心を高め、豊かな感性を養う。

「数学的リテラシー (Mathematical literacy)」とは、たとえば、次のような力です。

- 様々な文脈において、数学的に問題を解決する力
- 数学的に推論したり、数学的根拠に基づき意思決定したりする力
- 事象を描写したり説明したり予測したりするために数学を利用する力
- 数学が世界で果たす役割を見出す力

授業では、この目標を実現するために、また、数学教育の国際的な動向に目を向け、本校独自のテキスト『TGUISS 数学』を使用しながら、次のような活動を重視していきます。

- 実社会の問題を、数学の問題に直し、数学的に処理し、得られた解をもとの問題場面に照らして解釈する活動
- グラフ電卓やパソコン等を積極的に活用した探究活動
- 数学を使い、つくる活動

5年次では、「数学Ⅱ」(4単位)、「数学B」(2単位)、DP数学(3単位)の3科目を開講します。5年次では特に、現実や数学の事象を解決し、その過程を振り返って活動を整理することによって、新たな数学の知識や方法を構築する力の育成を目指します。

DP Group 5(Mathematics) aims

The aims of all DP mathematics courses are to enable students to:

1. develop a curiosity and enjoyment of mathematics, and appreciate its elegance and power
2. develop an understanding of the concepts, principles and nature of mathematics
3. communicate mathematics clearly, concisely and confidently in a variety of contexts
4. develop logical and creative thinking, and patience and persistence in problem solving to instil confidence in using mathematics
5. employ and refine their powers of abstraction and generalization
6. take action to apply and transfer skills to alternative situations, to other areas of knowledge and to future developments in their local and global communities
7. appreciate how developments in technology and mathematics influence each other
8. appreciate the moral, social and ethical questions arising from the work of mathematicians and the applications of mathematics
9. appreciate the universality of mathematics and its multicultural, international and historical perspectives
10. appreciate the contribution of mathematics to other disciplines, and as a particular “area of knowledge” in the TOK course
11. develop the ability to reflect critically upon their own work and the work of others
12. independently and collaboratively extend their understanding of mathematics.

Assessment criteria, method and tasks

<General criteria(school-based)>

A: knowledge and skills (max. 6)

This criterion assesses students' understanding of mathematical knowledge and skills with formative quiz and final exam mainly.

B: Process and reflection (max. 6)

This criterion assesses the abilities of:

- 1) interpreting real-life problems into mathematical problems and deriving a conclusion from facts based on proper mathematical procedures, then reflecting and evaluating the process of solving problems and the conclusion
- 2) deriving and verifying patterns and properties from mathematical phenomena, then developing them

<Criteria for Mathematical exploration>

Criterion A: presentation (max. 4)

This criterion assesses the organization and coherence of the exploration.

Criterion B: Mathematical communication (max. 4)

This criterion assesses to what extent the student has:

- used appropriate mathematical language (**notation, symbols, terminology**). Calculator and computer notation is acceptable only if it is software generated. Otherwise it is expected that students use appropriate mathematical notation in their work
- defined **key terms** and variables, where required
- used **multiple forms of mathematical representation**, such as formulae, diagrams, tables,

<p>further with report task, final exam and so forth.</p> <p>C: Mathematical Communication (max. 6)</p> <p>This criterion assesses the abilities of:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) showing good use of precise mathematical expressions or notations effectively 2) reasoning appropriately and explain his or her opinions clearly and concisely 3) expressing his or her opinions against other's ideas based on appropriate reasoning <p>with report task, final exam and so forth.</p> <p>The total score is 18. The scale for evaluation is 1-7.</p>	<p>charts, graphs and models, where appropriate</p> <ul style="list-style-type: none"> • used a deductive method and set out proofs logically where appropriate. <p>Criterion C: Personal engagement (max. 3)</p> <p>This criterion assesses the extent to which the student engages with the topic by exploring the mathematics and making it their own.</p> <p>Criterion D: Reflection (max. 3)</p> <p>This criterion assesses how the student reviews, analyses and evaluates the exploration.</p> <p>Criterion E: Use of mathematics-SL (max. 6)</p> <p>This criterion assesses to what extent students use mathematics that is relevant to the exploration.</p> <p>The total score is 20.</p>
---	---

Contents of study

1. **Functions** (April-July)

1. (contents) Trigonometric functions, Exponential and logarithm functions with e, Some other modellings, Loans and annuities

2. **Statistics** (September-February)

(contents) Sampling and data, Discrete random variables, the Normal distribution, Hypothesis testing, some other statistics

3. **Mathematical exploration** (February-April, dual-work with pre-calculus)

Each student must choose his or her own topic or research question and explore it, using mathematics.

4. **Pre-calculus** (February-March, continued to July)

(contents) Differentiation, (Properties of curves, Applications of differentiation, Integration)

理科 5 学年 <DP 化学>

6 年を通した目標

自然に対する関心を高め、「化学」のみならず「科学」が人間生活や環境にどのような作用をもたらすかについて、具体的に論じることができるようになる。また、実験データや様々な科学的情報を、適切な科学用語を用いて説明できるようになるとともに、その傾向やパターンについて論じることができるようになる。実験では、安全に留意して実験器具や装置を使用し、他者と協力して作業できるようになる。

DP 化学の 2 年間 (5~6 学年) の目標/伸ばしたい力

化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や生物システムの理解を支える土台となります。DP Chemistry では現実事象の理解や解決のために、実験・研究スキルの習得と化学の基本原理の学習が一体となった学習をします。学習過程においては、実験デザインに関わる全ての活動を個人で行います。科学的な知識、実験観察の技能、思考力や判断力、コミュニケーション力、ICT 活用力等、多様な能力やスキルをバランスよく習得していきます。

評価規準

評価方法

DP 化学の次の 3 つの評価目標(評価規準、観点)に基づいて評価します。3 つの観点重みづけを A40%, B40 % C20 % とします。3 つの観点を総合して、各学期および学年の DP 評価を 7 段階で、学年の評定を 5 段階で示します。

規準 A 知識と理解(7点)	下記の①~④の 4 つの評価対象によって評価します。①~④のそれぞれについて、A~C の観点ごとに点数化し、換算表によって 7 段階評価および 5 段階評定を算出します。 ①単元テスト … DP 最終試験の形式に準拠したテスト。Paper 1 は多肢選択問題、Paper 2 と Paper 3 は短答式問題と論述的問題です。 ②模試 … 6 年次 8 月後半に DP 最終試験に則って実施します。 ③IA (内部評価) およびプレ IA の科学的探究の実験レポート。 ④その他、実験ノートの活用や授業内の議論等の学習状況全般:
規準 B 分析と評価(7点)	
規準 C 研究スキル(7点)	

文部科学省 高等学校学習指導要領における教科の観点

上記の 4 観点は、文部科学省が高等学校における理科の評価の観点として定めている 4 観点と次のように対応しています。

関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能 知識・理解	授業中の活動、課題等への取組みを総合的に判断して評価します。 上記の観点 A・B・C に対応します。 上記の観点 B・C に対応します。 上記の観点 A に対応します。
-------------------------------------	---

学習内容

<1 学期>

Topic 1 物質と量的関係

粒子の特性と化学変化、モルの概念、反応する物質の質量と気体体積

Topic 2 原子の構造

原子核、電子配置

Topic 3 元素の周期性

周期表、元素の性質の周期性

Topic 4 化学結合と構造

イオン結合と構造、共有結合、共有構造、分子の構造、金属結合

Topic 10 有機化学

有機化学の基礎、官能基の性質

Topic 11 測定とデータ処理

測定と結果における不確かさと誤差、グラフを用いる方法、有機化合物の分光学的同定

<2 学期>

Topic 5 エネルギー論・熱化学

エネルギー変化の測定、ヘスの法則、結合エネルギーとエンタルピー

Topic 8 酸と塩基

酸と塩基の定義、酸と塩基の性質、pH、酸と塩基の強弱、酸性降下物

Topic 9 酸化還元反応

酸化と還元、電池

<第 3 学期>

○Group4 プロジェクトの実施

★ 詳細については「DP 生徒用ガイド : Chemistry SL」を参照してください。

芸術科 5 学年 <DP 美術>

6 か年を通した目標

様々な表現活動や鑑賞活動を通じて、多様な文化を体験し、独創的な発想力や構想力を高め、柔軟な感性を持つ、国際社会に通用する人間を育成する。

DP 美術の 2 年間 (5~6 学年) の目標/伸ばしたい力

In DP Visual Arts students will experiment with a wide variety of genres and styles while exploring their own creative and cultural backgrounds. The course will focus on finding personal identity as well as understanding how the visual arts can affect society and the environment around us. Students will develop the ability to express their ideas for lifelong use.

評価規準	評価方法
------	------

At the end of each school term, students will be evaluated by the school-based DP visual arts assessment criteria.

Criteria A Analytical Thinking	Evidences; The Art Journal (Nonverbal visualization are included.)
Criteria B Artistic Expression	Art Works
Criteria C Communicating Through Art	Presentation Reports
Criteria D Developmental Process	Planning of the art Exhibition

学習内容

1 st semester/ April-May	Expressing myself through art
1 st semester/ June-July	Expressions in diversity
1 st semester/ July	Art fieldwork
Summer Vacation	Comparative Study (1)
2 nd semester/ September	Exhibition Appreciation
2 nd semester/ October-November	Art and environment
2 nd semester/ December	Comparative Study (2)
3 rd semester/ January	Thematic elements
3 rd semester/ February	Themes in art
3 rd semester/ March	Art fieldwork

★ 詳細については「DP 生徒用ガイド : Visual arts SL」を参照してください。